

# 入舟 コミュニティ協だより

第16号

発行: '15.9.30

発行所: 入舟地区

コミュニティ協議会

責任者: 田村 幸夫

TEL 223-3532



## 日如山小学校、出航しました

日如山小学校長 阿部 正利

日如山小学校は、歴史と伝統あふれる豊照小学校、湊小学校、栄小学校、入舟小学校の4校が統合し、4月1日、開校しました。

4月7日には始業式、9日には初めての入学式を行い、57名の一年生を迎えました。341名の児童、職員33名が乗り組み、銅鑼の音とともに出航、夏休み明けには転入生1名を加え、現在児童数342名、6カ月目の航海に入った所です。

この間、子どもたちは新しい出会いに対する期待と不安の中、友だち同士、時には学年を超えて絆を深め、新しい学校づくりに懸命に取り組んで来ました。5月に行われた開校記念大運動会でも、そんな思いと頑張りをご覧いただけたのではないかと思います。

また、子どもたちは開校を主体的に受け止め、児童会を中心として「どんな学校にしていきたいか」を全校で話し合い、代表委員会

で意見をまとめてきました。話し合いの成果は、7月3日(金)体育館を会場に行われた開校記念式典の中で児童会総務委員会が中心となり、わたしたちの日如山



小学校～めざせ日本一すてきな学校～」として発表されました。全校児童の思いのこもった発表とそれに続く校歌は実に見事な出来映えで、参加された方々から、「目頭が熱くなった」「涙があふれてきた」とのお言葉をいただきました。

当校の開校は、未来に羽ばたく子どもたちの教育環境を第一に考えた結果であるとはいえ、伝統あるそれぞれの小学校を閉じるという、大きな決断であったと拝察します。

そんな地域・保護者の皆様の深い思いと、市長からいただいた校旗の重さを真摯に受け止め、港町として栄え発展してきた地域の歴史と誇りを大切にして、地域とともに歩む新しい学校づくりに、職員一同、全力で取り組んでいきます。これまで各校に注いでくださった皆様方の温かいご理解とご支援を、日如山小学校にも変わらず賜りますようお願い申し上げます。

### 開校記念行事～ありがとうございました

#### 開校記念式典

会場: 日如山小学校体育館

参加者: 篠田市長、高橋市議会議長

来賓・児童・教職員含めおよそ530名

内容: 国歌斉唱、校旗授与、教育長式辞、

市長挨拶、校長挨拶、来賓紹介、児童による発表と校歌



## おたがいさまランチ

福祉・文教部会 星 尚子

ワンコイン 500円でショーを見て昼食を食べる、「しもまちお互いさまランチ」は、二か月に一度、奇数月に開催しています。

ショーは開催当初から食事と共に2本柱として力を入れてきました。しもまち出身者やしもまちで活躍している方々を中心に、歌にマジック、舞踊に落語に、と多岐な編成となっています。

出し物の一部を紹介しますと;

17回;落語(極楽家とんぼ)、6つの障害にも負けない中学生シンガ(川崎春香)

18回;バラエティ(お笑い事業団ニイガタ)、韓国舞踊(元 由鎮)

19回;「みんなで唄いまSHOW」(アドーナ・ステッラ)  
20回;右脳トレーニングとナマラ芸人のバルーン。

いずれも、好評で、しもまちの皆さんの温かい拍手が会場に響き渡りました。最近では、ボランティアスタッフ栗川さんのミニ健康コーナーも加わり、更に充実してきました。

参加人数も当初は約30名程度でしたが、現在では倍の約60名の方にお越し頂いております。

年6回開催のうち、毎年9月の敬老会は長寿のお祝い、豪華版スペシャルランチです。

今年度の敬老会はまだ終わってしまいましたが、これからも私たち調理ボランティア手作りのお食事、おもてなしさせていただきます。皆様のご参加、お待ちしております!

福祉・文教部会



## 避難難訓練の反省

自主防会長 明間博隆

例年の通り、柳都中学校・日和山小学校地域との連携のもと盛んに防災訓練がとり行われました。

昨年は、柳都中学校の3年生全員で体育館を避難所運営を行っていただきました。学校側の指導が行きと



どき、こちらが考えた以上にスムーズにゆき大変驚きました。本年度は避難会場が2ヵ所に分かれ、中学校の避難所担当は昨年

## 避難所(日和山小)

を経験した方がいたため、心の中で安心しておりました。

小学校の会場は昨年の経験した人がいないため、当日役員と学生との連携が思わしくなく参加者より苦情の声が多々ありました。

1.玄関での受付を終えた後にどこへ行けばよいか、役員と学生との打合せが正確ではなかったために、参加者がどうすれば良いか戸惑っていました。

2.避難所(体育館)でも田の字で避難場所の設置を考えておりましたが、役員の指示がなかったため通路の所に参加者は座ってしまいましたので、



## 区長に跡地利用の提案書

コミ協副会長 鈴木 喬

- (1)日時;15.5.26(火)13:30~14:30
- (2)会場;区役所区長室
- (3)出席者;中央区;石塚区長、長浜課長、関係長  
コミ協;田村会長、明間、鈴木副会長、田村委員

(4)跡地利用検討会でまとめた提案書を提出;  
主旨;①入舟小の跡地にコミセンを移転し、地域交流センターとする、②コミセン跡地を複合施設として、防災教育センター、図書館、保育園、若い世代むけの住宅等を設置する。③両施設を災害時大規模避難所として運営する。

(5)コミ協が強調した点 ①小学校とコミセンの拠点

2ヶ所は地域コミュニティの核である

②当地域はこれまで防災に注力してきた。跡地の活用では、防災教育センターを目玉とし、防災モデル地域を目指したい。

(6)区長の答弁;市は財政難であり、すべてを満たす事は出来ない。機能をどのように分散するかが問題。地域には過程をフィードバックする。

小学校跡地にはコミセンを優先とする。今までと全く同じなのかはこれから考える。避難所は無くするわけにはいかない、しかし、単一目的の避難所でなく、複合化が必要である。当面コミセンの移設を最重点とし、その後、コミセン跡地の対応に移行するが地域の意向を重要視する。

**総務部会**



後で役員から通路部分に座っている方に動いて頂けませんかとお願いしましたが、参加者に座る前に指示してほしかったと言われました。

3.全体の指示に対して放送機器が使えなかったもので、開会式の遅れがあり事前の検証をしなかった事が悔やまれます。最初に避難された方からは全

員に時間割(日程表)が渡されていれば良かったのにとのご意見がありました。

## 避難所 (柳都中)

4.参加品に付いて事前に参加者人数の把握ができていたのにその準備が成されていなかったもので、渡す時に混乱が生じてしまいました。以上の事柄に対して役員の反省はどの様に対処して行くのか、今後の課題とっております。なおコミ協・学校との早めの打合せが必要と考えております。訓練での事前検証は必要と考えられますが、思うように行かないのが訓練であり、そのうまく行かなかったことも訓練であり次年度の課題として頑張っていきたいとおもっております。





コミ協懇談会

## コミ協の活動状況

総務部会 野村慶子

- ① 5.24 第18回お互いさまランチ(参加99名)
- ② 5.21 「入舟小・コミセン施設跡地検討会」  
の提案書を区長に提出
- ③ 5.31 入舟地区コミュニティ協議会総会  
(出席54名)  
日赤入舟分団総会、入舟地区社会福祉協議会総会  
入舟地区防犯協会総会、入舟地区主防災会総会  
を同日に開催
- ④ 6.28 入舟地区自主防避難訓練  
(参加; 日和山小; 652名、柳都中; 323名)

- ⑤ 7.12 第19回お互いさまランチ(参加96名)
- ⑥ 7.20 海岸一斉清掃 雨で中止
- ⑦ 7.26 ビーチライフ・イン新潟
- ⑧ 7.30 入舟地区防犯協会臨時総会  
(参加43名)
- ⑨ 8.18 跡地検討会(参加17名)
- ⑩ 9.4 コミ協懇談会〔参加45名〕
- ⑪ 9.13 第20回お互いさまランチ/敬老会  
(参加121名)
- ⑫ 9.26(予) 合同安全パトロール)
- ⑬ 9.30(予) コミ協だより(第16号) 発刊

総務部会

## まち探訪

### 開運稲荷神社のこんこん様

四ツ屋町に開運稲荷神社の参道には、新潟のみなどの歴史に深く関わりのある石像がありますので、ご紹介したいと思います。

#### 願いをかなえる「こんこん様」

この参道の左右にある狐の石像は明治の初め、出雲の国の廻船問屋が越後の国から米を購入する為め新潟港に入港した、その時乗ってきた空船の垂(おもり)に出雲石を積載した。これを狐像に作り当社に奉納された。

この狐像を、船員などを対象とした花柳界の人々を初め、漁業、海運業、倉庫業に関係する人々が商売繁昌、諸願成就の願いを



かなえる神の  
使いとしてあ  
がめ献納され  
たもので、当  
時の多くの信  
者たちはこの  
「こんこん様」  
の御利益を頂  
く為、この石

狐の両足をなで自分の額に戴くなどしてこのまじないを行ってお参りすることになっていました。〈開運稲荷神社々務所〉  
以上案内板より。

近年、みなとぴあから日和山まで歩く下町のまちあるきコースが人気です。開運稲荷神社のこんこん様も、みなとの歴史を感じる大事な存在であります。近年、酸性雨等の影響により、その姿が痛み始めております。この狐の石像を守る為、下町の皆さんのアクションが必要かもしれませんね。

#### 編集後記

日和山小学校も開校記念式典も終わり、当コミ協の名称も「入舟地区・・・」に変更しました。まさに歴史の大きな変曲点であります。2年後には日和山小学校は移転し、入舟地区から小学校が無くなります。コミセンが移転し、その跡地をどのように

活用するかは当面の大きな課題ですが、その後、新規施設群を中心にどのようなコミュニティに変貌するかに期待を寄せたいと思います

編集委員; 鈴木喬、高橋誠一、田村幸夫、  
野村慶子、明間博隆、古寺昭治、小島良子、  
野内隆裕、杉山節子